素顔のベートーヴェン

大沼幸雄

厳寒の地、旭川に生まれ、中学生のころから切手収集を始めました。当時は、切手収集ブームの最中でした。T 金物店の二階で切手交換会が開かれており、1951 春、中学 3 年生で入会しました。大人に混じり同じ年恰好の子供も 5～6 名はいたでしょうか。いつも寒さを吹き飛ばすような熱気に溢れていました。その会で、S さんが音楽切手のコレクションを手放なすと聞き、丸ごと譲りうけたのが、今の音楽切手収集にのめり込んだ始まりです。

ちょうどその頃、1952 年に西ベルリンからこの切手が出ました。ベートーヴェン没後 125 年記念でライフ・マスクをデザイン化したものです。引き締まった口元、意志の強そうな顔つきを見て「これぞベートーヴェン」とすっかり気に入りました。

原画は彫刻家クラインが、当時 41 才のベートーヴェンに石膏を使って制作したものです。一回目は、「窒息する」と騒がれて失敗し、二回目で成功したとのエピソードがあります。ベートーヴェンを実写した肖像画はいろいろありますが、その中で、このマスクは、「醜い天然痘や傷の痕まで残る」最も実像に近いと言われています。

今、眺めてみても、宮仕えのハイドン、モーツァルトとは異なり、台頭する市民社会を生き抜く独立した芸術家の逞しい素顔をよく表しているとお気に入りの一枚です。

（2017 年 9 月記）

（切手の博物館メンバーニュース “ＭＡＹ” 2017 年 10 月　第 130 号掲載）